

雑踏の中の男性

91.0 x 116.7 cm / 岩絵具、和紙 / 2018
第 229 回ル・サロン 2019 入選



モチーフの空気感まで伝わる
大胆かつ緻密な作品で、
世界的舞台に挑戦を続ける。

日本画家・林 良助

人

通りの多いアーケード商店街で立ち止まり、遠くを見つめるようにも、鑑賞者を凝視するようにも見える男性。彼の顔に刻まれているのはどんな感情なのか？ 怒り、戸惑い、それとも……。75頁下部の写真から想像できるように、『雑踏の中の男性』のモデルは画家・林良助自身である。彼が表現したのは、多くの人々の中にいても心の底から浮かび上がる老人の孤独感。さらにそこに漠然とした怒りや不安、悩みなども絡めている。写真の中の画家本人よりも絵の登場人物が複雑な表情をしているのは、訴えるべき気持ちを誇張して描いたからだ。孤独や苦悩を漂わせつつも、そこにあるのは、今まさに息をしているかのような生身の存在感。こうした存在感は、林の人物画だけでなく風景画にも見られる。『老木』に描かれたのは、熊本城二の丸公園に実在する楠の大木。年老いたこの木は、一見するとすでに枯れてしまったかのようにも見える。しかし、毎年春になると、新しい緑の芽を吹くのだ。この作品は、2016年4月に起きた熊本地震の翌年に描かれたもの。城の石垣など周囲はかなりの被

害を被ったが、老木そのものはほぼ無傷であった。数百年もの齢を重ねてきた木の生命力に魅せられた林は、全体ではなく一部を大胆かつ緻密に描くことでその存在を際立たせ、空気感まで伝えている。この絵を見た多くの熊本県民が、災害にも負けない自然の力強さから勇気をもらったに違いない。



老木
91.0 x 72.7 cm
岩絵具、和紙 / 2017
第 228 回ル・サロン 2018 入選